



女子教育プログラム 報告書2021

ルーム・トゥ・リードでは、少女が自己主張をしたり、困難な状況を切り抜けるための重要なライフスキルを身につけられるようサポートし、ジェンダー平等の世界を目指しています。新型コロナウイルス感染症（以下：COVID-19）のパンデミックは、すべての人に困難な状況をもたらしましたが、特に少女に特有の脆弱性や障害が露呈しました。ブルッキングスが指摘しているように、対面式から遠隔地での学校教育へと移行したことで、家事負担や経済的懸念、児童婚などの要因により、女子生徒が学校を中退する圧力が高まりました。私たちは、少女子たちに、自分たちは大切な存在であり、質の高い教育を受ける権利があることを伝えることを優先してきました。そのために、革新的なアプローチを用いて、これまで以上に多くの少女たちにアプローチしてきました。また、政府やパートナーのプラットフォームでコンテンツを共有し、不登校のリスクがある少女たちをモニタリングしました。これらの遠隔プログラム活動は、この未曾有の時代に少女たちが必要とするであろう様々支援を提供することを期待して実施されました。その結果、ルーム・トゥ・リードの活動が予想以上に成功したことを報告できることを嬉しく思います。

2021年を通して、少女たちがどこにいても、彼女たちに届くように適応させたプログラムを提供し続け、危機に適合した一連の指標を用いてプログラムの効果を追跡してきました。これらの指標は、私たちが長年培ってきたグローバル指標を応用したもので、パンデミックの中で私たちが活動しているさまざまな学習環境において、プログラムがどれだけ効果的に実施されているかを明確に示すことができます。

COVID-19 プログラムの革新性

2020年以前

対面式学習のための
女子教育コンポーネント

- ・ライフスキル教育
- ・メンターシップ
- ・物資や学業面でのサポート
- ・家族とコミュニティへの貢献

2020年

(COVID-19/パンデミックによる学校閉鎖)

遠隔地の少女に
メリットのある方法

- 遠隔でのメンタリング
- ・リスクのある少女へのモニタリング
- ・ダイレクトメッセージ送信
- ・テレビやラジオでの放送
- ・印刷物の配布

2021年以降

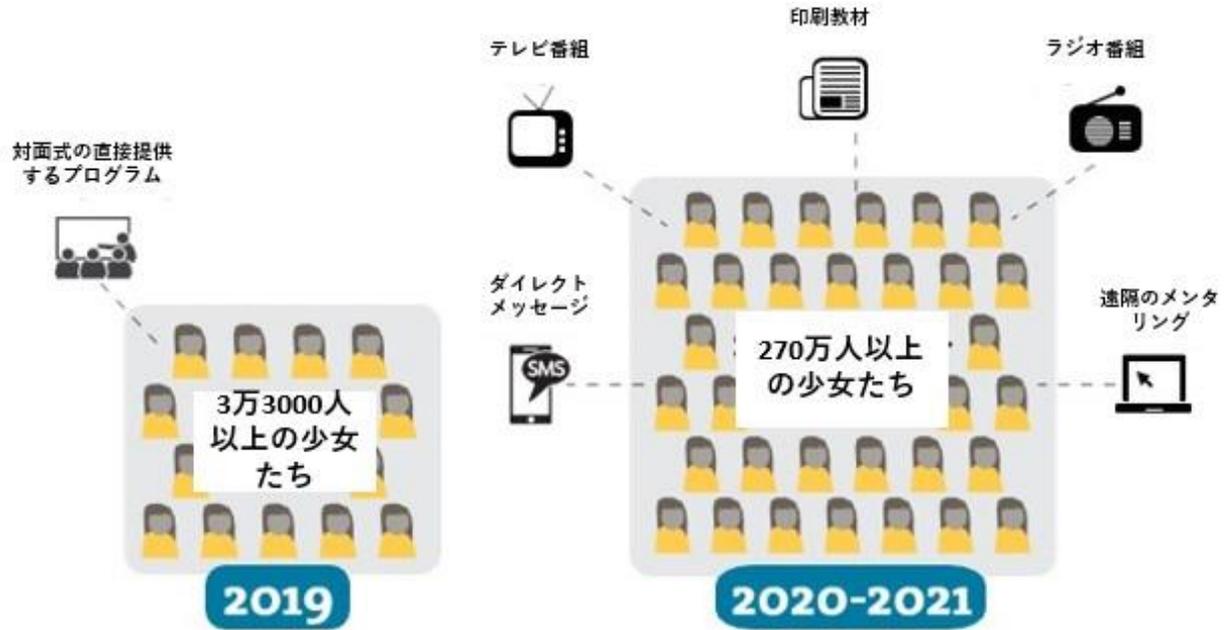
ミックスモダリティ
アプローチ

- ・可能な限り多くの少女たちに
尊厳のある包括的な学習を支
援するために、地域に関連し
た対面式と遠隔式の要素を取
り入れたハイブリッドなアプ
ローチ

ルーム・トゥ・リードの研究・モニタリング・評価（以下：RM&E）チームは、手法のさらなる改善と構築に役立つ調査やデータの収集を継続的に行うとともに、エビデンスに基づく比較情報を提供しています。

これまで以上に多くの少女に恩恵を与える

2020年は、女子教育プログラムで恩恵を受けた子どもたちの数が大幅に増加しました。2019年末までの累計では、11万4,900人の少女にプログラムの恩恵を与え、2019年だけで3万3,000人以上の少女に支援を行いました。そして、2020年には270万人以上の少女に支援を行いました。この大幅な増加は、ラジオやテレビ番組など、パンデミック中の少女たちを支援するための新たな手法によって、より多くの視聴者に迅速にアプローチできたことによるものです。



RM&Eチームは、これらの活動の到達範囲を推定するために、専門家によって吟味された新しいカウント方法を開発しました。特に、テレビやラジオの放送では、単に番組にアクセスしている少女の数だけでなく、通常の対面式プログラムでリーチしている少女以外に、定期的に放送を見たり聞いたりしている少女が何人いるかを推定するために、様々な変数を考慮する必要がありました。国勢調査や人口統計など、一般に公開されている国のデータを利用し、子どもを二重にカウントしないように、現在の番組参加者の数を差し引いて計算しました。COVID-19の期間中、世界的にオンラインでの活動にシフトしていたため、参加率の推定値をベンチマークするために、社内外の多くの新しい研究結果を確認することができました。入手可能なデータに基づき、保守的に、放送地域の女子教育プログラム参加者以外の参加率を10~20%と控えめに推定しています。



プログラム参加者の高い復学率

2020年末には、カンボジア、ラオス、スリランカ、タンザニア、ベトナムで、学校が再開され、復学率を調査したところ、目覚ましい成果がありました。具体的には、2020年2月28日時点の総在籍数に対して、12月31日時点で学校に在籍している、または学校を卒業した女子生徒の数を調査することで、復学率を算出しました

女子教育プログラム参加者の学校復帰率（2020年末時点）



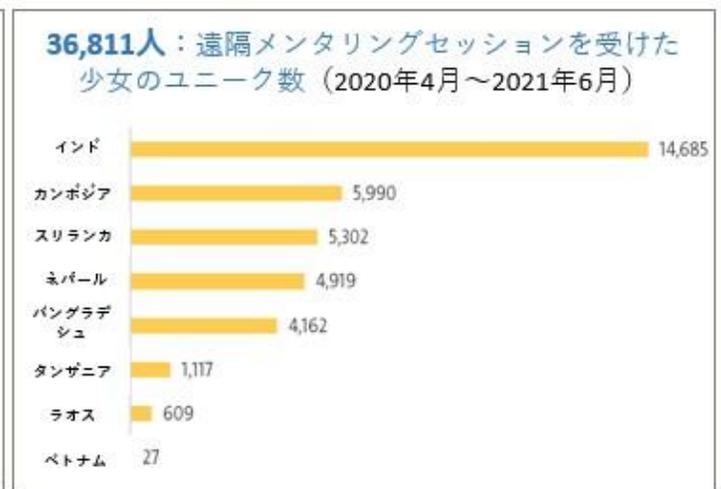
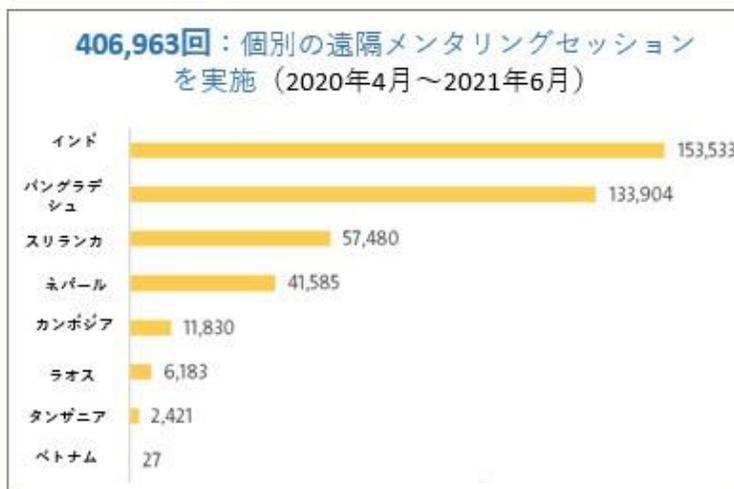
2021年半ば時点でのミックスモダリティ活動

インディケーター（指標）	2021年1月～6月	累計
テレビで放送されたルーム・トゥ・リードのプログラム/エピソードのユニーク数	161	187
ラジオで放送されたルーム・トゥ・リードプログラム/エピソードのユニーク数	85	218
メール/SMS/WhatsApp/Telegram/WeChat/その他の手段で、メールアドレスまたは携帯電話に直接メッセージを送り、女子教育プログラムのプログラム目標を達成した数	1,281,475	3,371,540
女子教育プログラムの目的を促進するソーシャルメディアプラットフォーム（Facebook、LinkedIn、Instagram、YouTubeなど）における投稿/ファイルのユニーク数	905	1,435
政府や他のパートナー団体のウェブサイトアップロードされた資料のユニーク数	20	58
デジタルではない教材（印刷教材やワークシートなど）を受け取った少女のユニーク数	8,685	19,289
個別の遠隔メンタリングセッションの実施ユニーク数	141,475	406,963
個別メンタリングセッションを受けた少女のユニーク数	24,148	36,811

ソーシャルモビライザーによる少女たちへの 大規模な遠隔メンタリングの継続

現在進行中のCOVID-19のパンデミックにより、私たちのプログラムは、遠隔地での学習や対面式での学習に柔軟に対応していく必要があります。当初は課題もありましたが、ルーム・トゥ・リードにとっては、従来のプログラムを超えて少女たちにアプローチする新しい方法を見つける機会となりました。

このような工夫により、遠隔学習や遠隔参加を容易にすることができるようになりました。メンターとなるソーシャルモビライザーは、個人やグループでのメンタリングセッションの実施、少女たちの家への訪問、電話、メッセージ送信など、少女たちを徹底的にサポートしています。これらはすべて、この困難な時期に、少女たちが重要なライフスキルの授業の出席機会損失を防ぐためです。世界的な健康危機の影響で、少女たちには予期せぬさまざまな障害が発生していますが、現地のスタッフは、少女たちにとって重要な社会情緒的サポートを受け、どんな困難をも乗り越えられるようなプログラムを開発し、回復力（レジリエンス）と創造性を発揮しています。2020年4月から2021年6月までに、インド、バングラデシュ、スリランカ、ネパール、カンボジア、ラオス、タンザニア、ベトナムで、ソーシャルモバイラーが合計406,963回の個別に遠隔メンタリングセッションを行い、36,811人の少女たちに支援を届けました*。



*なお、ベトナム、ラオス、タンザニアでは、2020年4月から2021年6月までの間、一時的に学校が閉鎖されたため、上記の数字に影響が出ています。



ネパール

カビタ

(プログラム卒業生・ ソーシャルモビライザー)



ネパールのカトマンズでルーム・トゥ・リードの女子教育プログラムに参加したのは4年生のときでした。10年生を修了した後、カビタは結婚の申し出を受けるようになり、家族からは経済的な問題を解決するために結婚を考えるようプレッシャーを受けました。ソーシャルモビライザーから「ノー」と言うように励まされ、ライフスキルの授業で培った知識によって力を得たのです。

今では、母親はカビタを、少女が学校に通うことで何が起るかを示すインスピレーションの源として見ています。かつては早期結婚に賛成していた彼女の母親も、「今では、友人や職場の同僚に、娘を若いうちに結婚させず、勉強させるようにアドバイスしています」と語っています。

カビタは、ルーム・トゥ・リードとのつながりを大切にしながら、現在は自分の住むヌワコットのコミュニティでソーシャルモビライザーとして活躍しています。彼女は主に7年生の少女を担当していますが、少女たちが教育を受けることに関して家族から受けているサポートが不足していることを目の当たりにしています。ライフスキルの授業では、少女たちに問題解決の方法や、感情をコントロールする方法、教育を受けるための重要なスキルを教えています。また、少女たちに個別のメンタリングを提供し、少女が学校に留まることで何が達成できるかを示す例として、自身の体験談を語っています。

かつて少女たちの立場にいたカビタは、彼女たちに共感し、さまざまな課題や恐れを理解し、その生きた経験を支援や指針としています。カビタの少女たちへのサポートは、COVID-19のパンデミックの間も続いています。定期的に少女たちに電話をかけて、様子を見たり、質問に答えたり、学校を続けるよう勧めたり、練習したライフスキルを復習したりしています。

カビタは、ルーム・トゥ・リードの女子教育プログラムの持続的な効果を証明しています。かつては、どうすれば自分の夢を叶え、教育を受けることができるのか分からない少女でしたが、今では自信と思いやりで満ちた適応力のある女性に成長し、次世代の少女たちが自分と同じような機会を得られるように積極的に活動しています。

カビタの話はブログでもとりあげています。[こちら](#)をご覧ください。



インド

ロシュニ

(プログラム参加者)

インドでは、少女たちにとって児童婚は特に大きな問題であり、教育を受ける上での大きな障壁となっています。ルーム・トゥ・リードの女子教育プログラムに参加しているロシュニは、COVID-19のパンデミックの際に、この慣習の現実を目の当たりにしました。

ロックダウン中に、チャッティスガル州に住むロシュニの母親が、町の少女が結婚する予定だと言いました。混乱したロシュニは、この結婚についての情報を調べました。すると、その結婚相手が未成年者であることを知り、何かしたいと思った。ロシュニは少女の姉に連絡を取り、彼女の考えを聞き、児童婚が違法であることを繰り返し伝えました。しかし、少女の姉は、結婚を止めるために何もできず、自分が無力だと感じていると打ち明けました。

ロシュニは行動を起こすことにしました。

「ライフスキル教育を受けたことで、困難な時にクラスメートを助けることができるようになりました。私は村の変革者になりたいと思っています」。ロシュニは、父親に同行してもらい、村の代表者であるサルパンチに会いに行きました。彼女はサルパンチを説得して、児童婚を止めさせようとしていました。

しかし、サルパンチは、「この村に住む移民のコミュニティでは、児童婚はよくあることです。パンデミックによる失業や貧困のために、多くの親が未成年の娘を結婚させています。ロックダウン中であることを利用して、低コストの儀式を秘密裏に行っているのです」。

ロシュニは、ソーシャルモビライザーに電話しました。フリーダイヤルのチャイルドホットラインに連絡することと、警察に電話するよう助言しました。自分の身元を秘密にしてほしいと頼むことも忘れずに。警察は迅速に対応し、児童福祉委員会に連絡をしてくれました。

警察、チャイルドライン、CWCのメンバーは、結婚する予定の少女の家に行き、両親に結婚を止めないと法的な影響を受けると伝えました。法的な影響を恐れた少女の両親は、未成年の娘の結婚を取りやめることにしました。警察はロシュニの努力を評価し、彼女の身元を秘密にしてくれました。

ロシュニは、ルーム・トゥ・リードの女子教育プログラムで身につけた知識とライフスキルを活かして、児童婚に反対し、地域のリーダーとして少女の権利や学校教育の重要性を訴えています。彼女は、自分の教育を応用して児童婚を止めることができたことに感激しました。



ルーム・トゥ・リードのスタッフは、近々予定されているプロジェクトの一環として、ロシュニをはじめとする女子教育プログラムに参加している少女たちにインタビューを行いました。このインタビューは、ルーム・トゥ・リードとRebel Girlsの共同プロジェクトの一環として、プログラム参加者の経験についての洞察を提供するものです。